

4月18日に、本校6年生109名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力の関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

【総合結果（国語・算数）】

A・・・主として知識

B・・・主として活用

国語A・B、算数A・Bともに全国平均を上回りました。無回答率は、国語・算数ともに昨年と比べて大きく改善しています。ジョイントプログラムにおいてもそうですが、児童が問題に向き合い、最後まであきらめないで取り組もうとする姿勢が育ちつつあります。

【国語科より】

「書く」の正答率が上がっています。目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして文章を詳しく書くことや物語を読んで自分の考えをまとめたりすることができます。無回答率も低く、文章を書くことに抵抗を感じない児童が多かったようです。これは、文章や新聞を書くときに、字数や時間を制限したり、モデル文を提示したりしたことが効果的であったと考えられます。

一方「読む」については課題が見られます。登場人物の相互関係や心情、場面について捉えることや、話し合い活動での発言の意図を捉えることに弱さがあります。学校では、教科書教材と関連のある本を読む『並行読書』を取り入れ、読む量を増やしていきます。また、読んで考えたことを話し合うことで、一人一人の感じ方に違いがあることに気付き、各自の読みを広げていきたいと考えています。ご家庭でも、本や新聞を読み、自分の考えをもつ時間を大切にしてほしいと思います。

また、ことわざや同音異義語の習得にも課題が見られます。国語辞典や漢字辞典を日常的に利用し、調べる習慣を付けることが大切です。学校では、国語科だけでなく他教科等における調べ学習や日常生活の中でも積極的に辞典を利用できるように言語環境を整えていき、家庭での宿題や自主学習でも、積極的に辞典を活用できるようにしていきたいと考えています。

【算数科より】

算数Aについては全体的に平均よりも上回りましたが、基本的な問題で以下の分野が気になります。

○整数と小数の計算 (6+0.5×2)

○商を分数で表す (5÷9)

○平行四辺形・三角形の底辺と面積の関係

全て4・5年生で学習する内容です。既習事項が定着できるように、スキルタイム等で繰り返し復習していきます。図形の学習等では、見えている図形から判断するだけではなく、自ら補助線をつけ加えたり、答えを予想したりすることも必要です。また答えの見通しを持ちながら、問題に取り組む習慣も身に付けていきたいと思います。

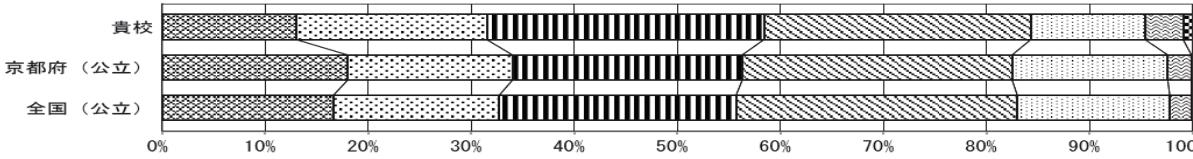
算数Bについては、問題に粘り強く取り組んでいる児童が多く、無回答率も低かったものの正答率の低い問題もありました。それは、目的に適したグラフを選び、自分の考えを記述する問題で、様々なグラフの特性や使い方を知り、取捨選択する力が必要となってきます。そのため、普段から日常生活の事象を身近なものに置き換えて、表や図・グラフに表す活動を大切にしていきます。また、式や答えを書くだけでなく、それに対して自分で説明できる力が必要です。低学年の時期から、図や言葉を使って自分の考えを説明したり、友だちの説明を自分の考え方と比べながら聞いたりする時間を設けていきます。

自主学習でも、「なぜ」という疑問を大切にし、問題集等も活用しながら、色々なパターンの問題に自分で取り組んでほしいと思います。

【児童質問紙調査から】

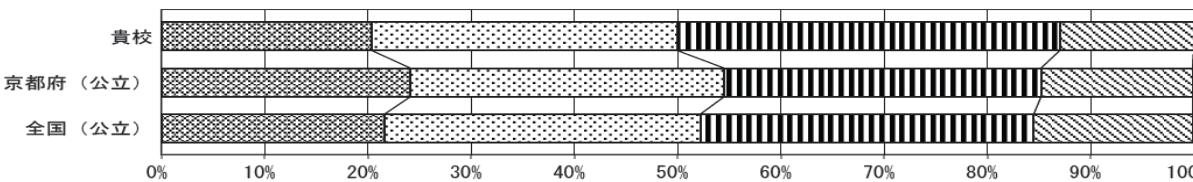
質問番号	質問事項									
(12)	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く）									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	13.0	18.5	26.9	25.9	11.1	3.7			0.9	0.0
京都府（公立）	18.0	16.0	22.3	26.2	15.1	2.3			0.1	0.0
全国（公立）	16.6	16.1	23.0	27.3	14.8	2.1			0.1	0.0

[■ 1. 4時間以上 ■ 2. 3時間以上、4時間より少ない ■ 3. 2時間以上、3時間より少ない ■ 4. 1時間以上、2時間より少ない
■ 5. 1時間より少ない ■ 6. 全く見たり、聞いたりしない ■ その他 ■ 無回答]



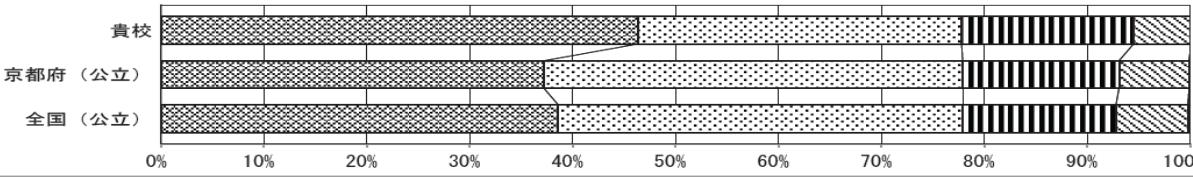
質問番号	質問事項									
(7)	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	20.4	29.6	37.0	13.0					0.0	0.0
京都府（公立）	24.1	30.4	30.7	14.7					0.0	0.1
全国（公立）	21.6	30.6	32.3	15.4					0.0	0.0

[■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない ■ その他 ■ 無回答]



質問番号	質問事項									
(6)	自分には、よいところがあると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	46.3	31.5	16.7	5.6					0.0	0.0
京都府（公立）	37.2	40.7	15.2	6.8					0.1	0.1
全国（公立）	38.6	39.3	14.9	7.0					0.0	0.0

[■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない ■ その他 ■ 無回答]



【全体を通じた本校の成果と課題】

この調査は、学力や学習状況の調査結果を、学校での指導・家庭での学習や生活の改善に役立てることを目的の1つとしています。

質問（12）の結果からは、家庭でのテレビ等の視聴時間の長い子が多いということがわかります。読書をしたり、新聞を読んだりする時間が少ないことも気になります。テレビやゲーム等に使う時間が多いため、読書の時間が少ないのでかもしれません。図書館を利用する機会も少ないようです。一方、家庭学習に費やす時間は、全国・全市平均を上回っています。本や新聞を読む時間を増やすことで、色々な知識や情報を得ることができ、自主学習にも生かすことができるのではないかでしょうか。ご家庭で今一度、1日の時間の使い方について話し合って頂ければと思います。

質問（6）からは、自分にはよいところがあると思っている児童が多くいることが分かります。物事を最後までやり遂げて嬉しかった経験をした児童も多く、日常の生活経験の中で自分のよさを認めてもらう機会が多くあったのではないかと考えます。その一方で、質問（7）からは、友だちの前で自分の意見を発表することに苦手意識をもっている児童も多くいることが分かります。自分の良さを知りつつも、自分の考えを表明することにはまだ自信がもてない傾向があるようです。中学生以降になると、部活や進路で自己決定を必要とする場面が増えます。周りに流されず、自分の考えをはっきりと主張することも必要となってきます。物事に対する自分の考えをもち、それを自信をもって主張できるよう、低学年のうちから、授業での話し合い活動や発表の機会を多く取り入れ、色々な意見や考え方に対する反応をさせていきたいと思います。ご家庭でも、家族で話をする時間を大切にし、自分の考えを認めてもらっているという実感をもたせてあげてください。

この結果を基に、子どもたちの現状をしっかり受け止め、改善の方法を探って頂ければと思います。これからも、学校・ご家庭との連携を大切にしながら、自ら進んで学んでいく子どもに育てていきたいと思います。